

SPH10/20 風による誤差を最小限に抑える スタティック・プレッシャー・ヘッド

風の影響は、気圧計測の誤差の主な原因の一つです。動圧による影響を除去する屋外気圧取入口（スタティック・プレッシャー・ヘッド）の使用により、強風や突風による測定値の影響を最小化することが可能可能です。

屋外気圧取入口SPH10/20シリーズは、風の影響によって生じる誤差を最小限に抑えるよう設計されています。

風洞試験済の構造は、水平方向、垂直方向とも対称です。この設計により、信頼性の高い全天候型の気圧測定を実現します。

屋外への取り付けに最適

屋外気圧取入口（スタティック・プレッシャー・ヘッド）は、基本タイプのSPH10、雪氷条件でも信頼のおける加熱タイプのSPH20の2種類のモデルをご用意しています。加熱式のSPH20は、結氷の恐れがある温度になるとヒーターのスイッチが入るサーモスタット内蔵です。

紫外線に強いPC樹脂とアルミニウム合金で構成されるSPH10/20は丈夫で、天候への耐性に優れています。

SPH10/20は雨や結露水から保護されているため、圧力誤差の原因となるパイプ部の毛細管浸水を防ぎます。下側のプレートに開けられた孔により、雨水や水は排出されます。屋外気圧取入口（スタティック・プレッシャー・ヘッド）の内側にはネットが張られており、昆虫やダストによるパイプ部の詰まりを防止します。

簡易メンテナンス

SPH10/20は、現場でも取り付け、取り外し、メンテナンス、洗浄が簡単です。ヴァイサラBAROCAP®デジタル気圧計PTB210は、SPH10/20の先端に直接取り付けることが可能です。その他の気圧計も、圧力チューブで接続できます。

SPH10およびSPH20は、ヴァイサラの気圧計のオプションとして最適な製品です。どんな気象条件でも、高精度かつ信頼のおける測定を実現します。



SPH10/20は取り付けが簡単です。写真のSPH10はPTB210気圧計に接続されています。

特長

- 風の影響を最小限に
- 全天候型の信頼できる気圧測定
- 風洞試験済の構造
- 簡単なクリーニング
- 簡単な取り付け

技術情報

一般仕様

動作温度範囲	-60~+80°C (-76~+176°F)
質量	
SPH10	800g
SPH20	1,360g
材質	PCプラスチック、アルミニウム合金
取り付け方法	ボルト2本(M6 X 最小20mm)
気圧チューブ接続部	タケノコ継手 (内径4mmチューブ用) またはRp1/4ネジ(平行)

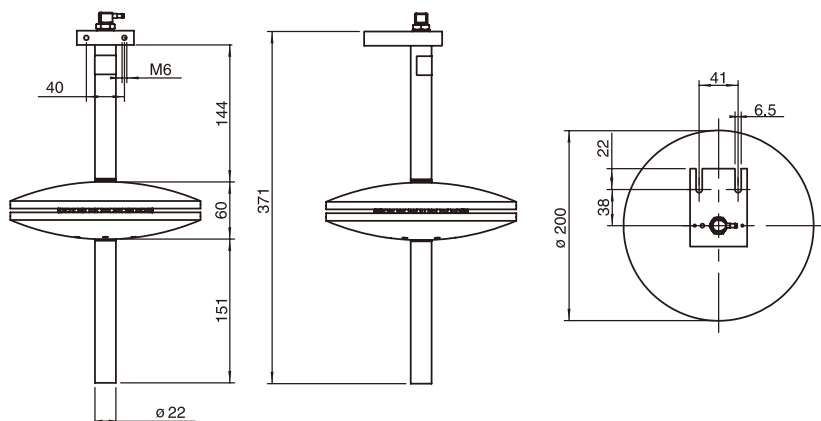
SPH20

結線	M12コネクタ
電源供給	工場出荷時 12V 設定変更時 24V
サーモスタット作動温度	
オン	+4°C (±3°C) +39.2°F (±4.4°F)
オフ	+13°C (±3°C) +55.4°F (±4.4°F)
ヒーター使用時の消費電力	70W

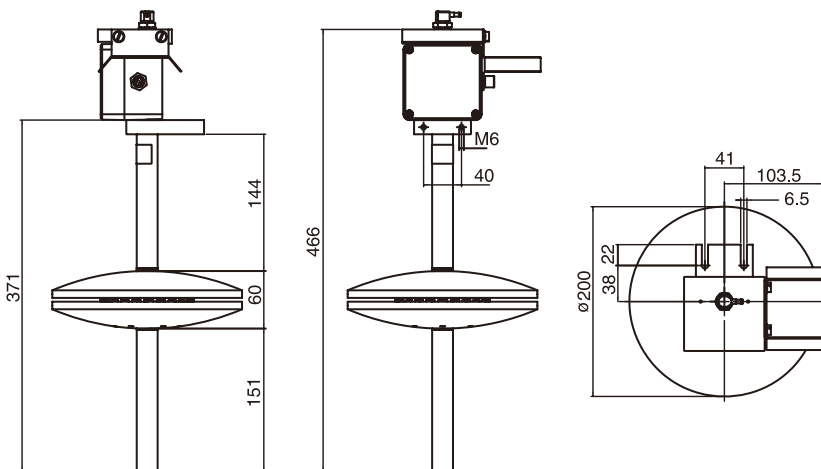
外形図

単位:mm

SPH10



SPH20



VAISALA

詳細は以下よりお問い合わせください。
www.vaisala.co.jp
sales.japan@vaisala.com

Ref. B210907JA-A ©Vaisala 2010

本カタログに掲載される情報は、ヴァイサラと協力会社の著作権法、各種条約及びその他の法律で保護されています。私的用途その他法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（複製、送信、頒布、保管等を含む）をすることは、事前に当社の文書による許諾がないかぎり、禁止します。仕様は予告なく変更されることがあります。